

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/18

イースター休暇を控え、次の方向感を模索

通貨ペア		ページ数
基調		
ユーロ/円	⇒ 本邦貿易収支にも注目 予想レンジ: 118.30 ~ 122.20円	2-3
ユーロ/ドル	⇒ ポジション調整一巡でもみ合いへ 予想レンジ: 1.4250 ~ 1.4480 ドル	4-5
ポンド/円	⇒ MPCメンバーの動向に注意 予想レンジ: 132.00 ~ 138.60 円	6-7
ポンド/ドル	⇒ 英米イベント睨みの週 予想レンジ: 1.6180 ~ 1.6450 ドル	8-9
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 4/11~15までの主な推移



4/12 Tuesday	福島原発事故の国際評価尺度を最悪の「レベル7」に引き上げた事や、東京電力幹部が「放射性物質の放出量がチェルノブイリを上回る可能性がある」との見解を示した事を嫌気して日経平均株価が150円超の下落となると、リスク回避の動きが強まり、ユーロ/円は120.14円まで下落した。(①)しかしその後中国の温家宝首相が「中国はスペイン国債の購入を継続する」と発言した事が好感され、ユーロ/円は122.23円まで反発した。
4/13 Wednesday	アジア・欧州の株式市場が堅調に推移した事や一時下落していた原油先物価格が持ち直した事を背景にユーロ/円は122.13円まで上昇したが、その後格付け会社S&Pが「ギリシャの債務再編があれば50-70%の債務減免が必要になる」との見解を示した事に続き、ショイブレ・独財務相も「ギリシャの財政が持続不可能なら債務再編が必要」との見解を示すとユーロ/円は120.75円まで下落した。(②)
4/14 Thursday	前日に広がったギリシャの債務再編に対する懸念から、同国10年債利回りが13%を超えて過去最高水準を更新すると、ユーロ/円は119.24円の安値を付けた。(③)しかしその後欧州の要人からギリシャの債務再編を否定する発言が相次いだ事や、下落して始まったNYダウ平均が持ち直した事、さらに原油価格が上昇した事を受けて急速にユーロが買い戻され、ユーロ/円は120.97円まで反発した。

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は119.24円～123.33円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約2.4%の下落（ユーロ安・円高）となった。15日に発表された12日までのシカゴIMM通貨先物のポジションでは、円の売り持ちとユーロの買い持ちがかなりの量で増加しており、先週後半の下落は、ギリシャの債務再編への懸念が高まった事に加え、積み上がったユーロ買い・円売りポジションの巻き戻しという面もあると見られる。この下落を経て、短期筋のポジション調整がある程度進んでいるとすれば、今週のユーロ/円は、欧州の追加利上げ観測と本邦ゼロ金利政策の長期化観測から底堅く推移しそうだ。20日に発表される本邦3月貿易収支で、震災の影響から輸出が落ち込んだ結果、黒字幅が大きく縮小しているようだと、円売りが強まる可能性もある。ただ、欧米では今週末からイースター休暇入りとなるため、新規のユーロ買い・円売りポジションを構築する動きも限られそうで、上値も限定的であろう。目先のユーロ/円はレンジ内でのみみ合いが予想される。（神田）

（予想レンジ: 118.30～122.20円）

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/円 4/15週足引値: 119.83円（日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開）ユーロ/円は、88.93円（2000/10安値）から169.95円（2008/07高値）へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円（8/24）を安値、115.97円（3/04）を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇している。先週のユーロ/円はそれまでの上昇に対する調整的な下落の動きとなった。取引値は20日線（118.54円、4/15）や60日線（114.91円、4/15）、200日線（112.39円、4/15）、を上回っている。ボリンジャーバンドは4/15現在、上限: 124.56円～下限: 112.53円で、バンド上限が下落、下限は上昇してバンド幅は縮小している。ユーロ/円は、レンジでもみあい⇒ブレイク⇒新たなレンジでもみ合い、を繰り返すクセがある。目先は、これまでの上昇に対する調整的な動きとなっているが、118～123円のようなレンジになるのかもしれない。これまでワンウェイで上昇した動きの調整を経ると見られる。118円台半ば近辺の水準には注意したい。上値ポイントは、①123.33円（4/11高値）、②126.31円（139.22円と105.42円の61.8%戻し）であり、下値ポイントは①118.57円（20日線、4/15段階）②118.43円（113.53円<3/24安値>⇒123.33円<4/11高値>の半値）、③115.97円（3/04高値）である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 4/11~15までの主な推移



4/12 Tuesday	福島原発事故の国際評価尺度を最悪の「レベル7」に引き上げた事や東京電力幹部が「放射性物質の放出量がチェルノブイリを上回る可能性がある」との見解を示した事を嫌気して日経平均株価が150円超の下落となると、リスク回避の動きが強まりユーロ/ドルは1.4376ドルまで下落した。しかしその後中国の温家宝首相が「中国はスペイン国債の購入を継続する」と発言した事や、英3月消費者物価指数が予想を大きく下回った事を受けてユーロ/ポンドが上昇した事から、ユーロ/ドルは1.4520ドルまで急反発した。(①)
4/13 Wednesday	アジア・欧州の株式市場が堅調に推移した事や一時下落していた原油先物価格が持ち直した事を背景にユーロ/ドルは1.4521ドルまで上昇したが、その後格付け会社S&Pが「ギリシャの債務再編があれば50-70%の債務減免が必要になる」との見解を示した事に続き、ショイブレ・独財務相も「ギリシャの財政が持続不可能なら債務再編が必要」との見解を示すとユーロ/ドルは1.4412ドルまで下落した。
4/14 Thursday	前日に広がったギリシャの債務再編に対する懸念から、同国10年債利回りが13%を超えて過去最高水準を更新すると、ユーロ/ドルは1.4364ドルの安値を付けた。(③)しかしその後欧州の要人からギリシャの債務再編を否定する発言が相次いだ事や、下落して始まったNYダウ平均が持ち直した事、さらに原油価格が上昇した事を受けて急速にユーロが買い戻され、ユーロ/ドルは1.4501ドルまで反発した。

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4364~1.4521ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.2%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。1.43ドル台と1.45ドル台の上下を繰り返すなど、先週は荒っぽい値動きも目立ったが、結局は週足ベースでは小幅安で取引を終えた。13日に付けた1.4521ドルは、約15ヵ月ぶりの高値水準であり、ギリシャの債務再編に対する懸念に端を発した高値警戒感と欧州追加利上げ観測を背景とした押し目買い意欲がせめぎ合った結果の乱高下と言えそうだ。15日に発表された、12日までのシカゴIMM通貨先物のユーロ買い持ちポジション(ネット)が2007年12月以来最大の水準に積み上がっていたため、欧米市場のイースター休暇を前に、ポジション整理目的のユーロ売りが先行する事も考えられるが、先週の乱高下で、ポジションはある程度解消された可能性が高く、大幅な下落はないものとする。今週末のイースター休暇や来週の米連邦公開市場委員会(FOMC)を控えて、今週のユーロ/ドルは1.43~1.44ドルでのみ合いが続きそうだ。(神田)

(予想レンジ:1.4250~1.4480ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 4/15週足引値:1.4426(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234(2000/10安値)と1.6037(2008/07高値)の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒4/13高値1.4521となっている。現状の取引値は20日線(1.4265、4/15)、60日線(1.3929、4/15)、200日線(1.3479、4/15)よりも上値に位置する。先週は1.4364~1.4521の比較的狭いレンジでの取引に終始した。3/28に安値1.4020を見て、そこをボトムとしてもみ合いながら上昇の動きを見た。結果先週は大幅な上昇となっている。ボリンジャーバンドは4/15現在、上限:1.4555~下限:1.3975であり、取引値がバンド上限を押し上げて上昇し、下限も上昇が続いている。ユーロは上昇相場の中にある。上値ターゲットは2010年1月高値1.4579くらいしか見当たらない。皆がユーロ上昇、と言っている割には上昇しない動きがやや不気味であり、一旦はガス抜きが必要なのでは?とも思われるところ。米株の動向を見ながら歩調を合わせる動きとしたいところ。上値ポイントは1.4579(2010/01高値)、下値ポイントは①1.4248(3/22高値)、②1.4265(20日線、4/15段階)、③1.4020(3/28安値)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 4/11~15の主な推移



<p>4/11 Monday</p>	<p>前週末9日に米与野党が予算の基本合意に達し、連邦政府機関の一部閉鎖が回避されたことでドル/円が上昇して始まると、ポンド/円も139.51円の高値をつけた(①)。しかし、時間外のNY原油先物が上げ幅を縮小するとポンド/円は反落。さらに17時17分に福島で震度6弱の地震が発生し津波警報が発令されると、ドル/円が一段安となり、ポンド/円は連れ安となった。</p>
<p>4/12 Tuesday</p>	<p>8時過ぎに千葉県で強めの地震が発生するとリスク回避の動きが強まり、クロス円(ユーロ/円など)が全面安となる中でポンド/円も下落。原子力保安院が福島原発の事故を国際評価尺度にて最悪の「レベル7」に引き上げると発表し、東京電力が「放射性物質の放出量がチェルノブイリを超える可能性がある」との見解を示すと、135.96円まで値を下げた(②)。夕方にユーロ/円が反発するとポンド/円も小幅に値を戻したが、17時30分に発表された英3月消費者物価指数が前年比+4.0%と予想(+4.4%)を下回ったことがポンドの売り要因となり、ポンド/円は上げ幅を縮小。さらに、米国株が下落すると、ポンド/円は再び135円台に値を沈めた。</p>
<p>4/13 Wednesday</p>	<p>アジア・欧州株が堅調に推移する中、クロス円が全般的に上昇すると、ポンド/円も上昇。しかし、137円台では上値が重く推移。NY時間中に格付け会社S&Pが「ギリシャの債務再編があれば50-70%の債務減免が必要」との見方を示し、ギリシャ10年債利回りが過去最高水準にまで上昇したことを受けてユーロ/円が大きく値を下げると、ポンド/円も連れ安となった。なお、17時30分に英3月雇用統計が発表され、失業保険申請件数が700件増と予想(3000件減)より悪化した。反応は限定的だった(③)。</p>
<p>4/15 Friday</p>	<p>格付け会社ムーディーズがアイルランド国債を格下げしたことを背景にユーロ/円が下落すると、ポンド/円も連れて下落。英金融政策委員会(MPC)のセントانس委員が「利上げが遅れれば大きな利上げが必要となるだろう」と発言すると一時ポンド買いが優勢となったが、ポンド高一服後は再びユーロ/円の下げに連れて下落し、135.25円の安値をつけた(④)。</p>

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

今週の見通し

今週は20日にイングランド銀行(BOE)の英金融政策委員会(MPC)議事録が発表される。前月までのMPCにおける金融政策決定時の投票バランスは、0.50%の利上げに1名、0.25%の利上げに2名、据え置き5名、資産買い入れ枠拡大に1名、という結果だった。市場ではこれまで5月利上げ観測が広がっていたが、先週の消費者物価指数が予想を下回った上、雇用統計が僅かに予想より弱い結果になったことで、足元では5月のMPCについて金融政策据え置きを見る向きが多くなってきている。発表されるMPCの議事録においても、この投票バランスがタカ派側に前月よりも傾いていなければ、5月利上げ観測はますます後退し、ポンドには大きな下げ圧力が掛かるものと考えられる。また、翌21日に発表される英3月小売上高指数も要注目だ。この他、欧州債務不安を背景にユーロ/円が大きく動けば、ポンド/円も連れて動く公算だ。併せて関連報道には注意しておきたい。(ジェルベズ)

(予想レンジ:132.00~138.60円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/円 4/15週足引値:135.384円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)

ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。今後は上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的な流れでは依然として下落のように見える。

3/17に122.98円の安値を見て後、4/08には140.00円の高値を見た。先週のポンド/円は上昇後の調整下落の動きとなった。まだ現状では、20日線(134.71円、4/15)、60日線(133.20円、4/15)、200日線(131.98円、4/15)をすべて上回っている。ボリンジャーバンドは4/15現在、上限:140.77円~下限:128.64円であり、バンド上限は横這い、下限は上昇しており、バンド幅は縮小している。134~138円くらいのもみ合いとなると見られる。上値ポイントは①140.00円(4/08高値)、②140.58円(2010/5/10高値)、③140.90円(163.04-118.76の半値)であり、下値ポイントは①134.71円(20日線、4/15段階)、②133.20円(60日線、4/15段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 4/11~15の主な推移



4/11 Monday	欧州株が下落する中、ユーロ/ポンドでユーロ売り・ポンド買いが強まると、ポンド/ドルは上昇し、1.6425ドルの高値をつけた(①)。しかし、その後にNY原油先物が大幅な下げとなったことを受けて対欧州通貨でドルが全面高になると、ポンド/ドルは1.63ドル前半まで値を下げた。
4/12 Tuesday	8時過ぎに千葉県で強めの地震が発生したことでリスク回避の動きが強まり、ポンド/ドルは下落。原子力保安院が福島原発事故を国際評価尺度にて最悪の「レベル7」に引き上げると発表し、東京電力が「放射性物質の放出量がチェルノブイリを超える可能性がある」との見解を示すとこの流れはさらに強まった。その上、17時30分に発表された英3月消費者物価指数が前年比+4.0%と予想(+4.4%)を下回ったことがポンドの売り要因となり、ポンド/ドルは1.6226ドルの安値をつけた(②)。その後、ユーロ/ドルが上昇するとポンド/ドルも連れて反発したが、NYダウ平均が大きく値を下げると、再び1.62ドル台半ばまで下落した。
4/14 Thursday	アジア・欧州株が堅調に推移する中でポンド/ドルは上昇したが、ギリシャ国債利回りがユーロ導入来の高水準まで上昇し、欧州債務懸念が意識されてユーロ/ドルが下落すると、ポンド/ドルも連れ安となった。しかし、21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が41.2万件と予想(38.0万件)を上回るとドル売り優勢に転換。さらに、大幅安で始まったNYダウ平均が切り返す中、ポンド/ドルは一時1.6383ドルまで上昇した(③)。
4/15 Friday	ギリシャが債務再編に追い込まれるとの思惑が広がる中、格付け会社ムーディーズがアイルランド国債を格下げしたことを背景にユーロ/ドルが下落すると、ポンド/ドルも連れて下落。英金融政策委員会(MPC)のセンタンス委員が「利上げが遅れれば大きな利上げが必要となるだろう」などと発言すると一時ポンド買いが優勢となったが、ポンド高一服後は再びユーロ/ドルの下げに連れて1.6288ドルまで値を下げた(④)。

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

今週の英米は18日や22日(グッドフライデーで祝日)こそ手掛かり材料に乏しいものの、19日から21日にかけての3日間は双方ともに注目度の高い経済指標発表やイベントが予定されており、ポンド/ドルは双方の材料を睨んでの展開になる見通しだ。それぞれ、経済指標結果については予想よりも良好な結果が出ればその国の通貨が買われ、予想より悪い結果が出ればその国の通貨が売られる、という動きになろう。

20日に発表されるイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録については、金融政策を決定する際の投票バランスがポイントである。前月(0.50%の利上げに1名、0.25%の利上げに2名、据え置き5名、資産買い入れ枠拡大に1名)よりもタカ派側に傾いていれば、これまで広がっていた5月利上げ観測が強まり、ポンドの買い材料となるが、前回と変わらない状況となれば5月利上げ観測は一気に後退し、ポンドは大きく売られる可能性もある。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.6180~1.6450ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●ポンド/ドル 4/15週足引値:1.6297(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

先々週の4/08に直近高値を更新して1.6426を見たが、その後調整的な下落の動きとなっている。

取引値は20日線1.6211(4/15)、60日線1.6148(4/15)、200日線1.5824(4/15)を上回っている。また、ボリンジャーバンドは4/15現在、上限:1.6482~下限:1.5941であり、バンド幅の上限下限ともに上昇している。ポンドはユーロ/ドルの動きに引っ張られるような動きとなっている。ユーロ/ドルが調整的な下落になればポンドも1.61-1.62を見るとみられる。またもし上昇すると2010年1月の1.6458が目先のターゲットと言えそうだ。目先の上値ポイントは①1.6426(4/08高値)、②1.6458(2010/01高値)であり、下値ポイントは、①1.6211(20日線、4/15段階)、②1.6148(60日線、4/15段階)、である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/18~22)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/18 (月)	07:45	◎	(NZ) 第1四半期消費者物価 [前期比]	+2.3%	—
		◎	(NZ) 第1四半期消費者物価 [前年比]	+4.0%	—
	23:00		(ユーロ圏) 4月消費者信頼感・速報	-10.6	-11
	23:00		(米) 4月NAHB住宅市場指数	17	17
4/19 (火)	10:30	○	(豪) RBA議事録	—	—
	17:00		(ユーロ圏) 2月経常収支	-7億EUR	—
				(ユーロ圏) 2月建設支出 [前月比]	+1.8%
	20:00	◎	(加) 3月消費者物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.6%
		◎	(加) 3月消費者物価指数 [前年比]	+2.2%	+2.8%
	21:30	◎	(米) 3月住宅着工件数	47.9万件	52.5万件
	21:30	◎	(米) 3月建設許可件数	51.7万件	54.0万件
	21:30		(加) 3月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	—
	21:30		(加) 2月卸売売上高 [前月比]	+1.5%	—
4/20 (水)	8:50		(日) 3月貿易収支(季調済、通関ベース)	+5560億円	
	10:30		(豪) 第1四半期輸入物価指数 [前期比]	-3.8%	—
	15:00		(独) 3月生産者物価指数 [前年比]	+6.4%	+6.5%
	17:00		(南ア) 3月消費者物価指数 [前年比]	+3.7%	+4.0%
	17:30	◎	(英) BOE議事録	—	—
	20:00		(南ア) 2月実質小売売上高 [前年比]	+6.4%	+7.0%
	23:00	◎	(米) 3月中古住宅販売件数	488万件	500万件
		(米) 3月中古住宅販売件数 [前月比]	-9.6%	+2.5%	
4/21 (木)	10:30		(豪) 第1四半期生産者物価指数 [前年比]	+2.7%	—
	14:00		(日) 2月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	104.2	—
			(日) 2月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	106.3	—
	17:00		(独) 4月IFO景況指数	111.1	110.5
	17:30	○	(英) 3月小売売上高指数 [前月比]	-1.0%	-0.3%
		○	(英) 3月小売売上高指数 [前年比]	+1.2%	+1.2%
	21:30	◎	(米) 4/16までの週の新規失業保険申請件数	41.2万件	—
	21:30	○	(加) 2月小売売上高 [前月比]	-0.3%	+0.5%
	23:00	◎	(米) 4月フィラデルフィア連銀景況指数	43.4	37.0
23:00		(米) 2月住宅価格指数 [前月比]	-0.3%	—	
23:00		(米) 3月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	+0.3%	
4/22 (金)	—		ウェリントン、シドニー、香港、フランクフルト、パリ、チューリッヒ、ロンドン、トロント、		

巻末の特記事項を必ずお読みください。

米主要企業決算発表予定

4/18 Monday	ハリバートン、シティグループ、
4/19 Tuesday	ノーザン・トラスト、U・S・バンコプ、バンク・オブ・NYメロン、 ゴールドマン・サックス、インテル、ヤフーインク、ステート・スト リート、ジョンソン・エンド・ジョンソン
4/20 Wednesday	IBM、AT&T、ウェルズ・ファーゴ、アメリカン・エクスプレス、 アップル、
4/21 Thursday	マクドナルド、ゼネラル・エレクトリック、モルガン・スタンレー、 ベライゾン・コミュニケーションズ、

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com